

♡ ことばの力 ♡ からだの力 ♡ こころの力

園長室だより



城南学園幼稚園 園長 太田友子 令和4年1月11日

「小学校につながる確かな学びの基礎を培う」幼稚園



「新年のお慶びを申し上げます」



皆様には佳き新年をお迎えのことと存じます。本年は寅年、「草木が天に向かってたくましく伸びていく時期」と言われています。

本園では、教職員一人一人の力を総力とし、更なる幼稚園へと「育ちつづける年」にしたいと考えています。

さて、三学期は、「まとめの時期」であり、次年度への「準備の時期」となる大切な時期です。

子どもたちには自信を、保護者の皆さまには安心をもって進級していただけるよう、教職員一同、より一層、指導の充実に努めてまいります。

伝えたいこと

園では、昨年末に子どもたちとお餅をつきました。一年の無事に感謝するとともに、新たな年も幸せに過ごせますようにとの願いをこめて、お餅をつきました。



さて、昔から「晴れの日」にはお餅をついて、家族や地域の人たちと祝う習慣がありました。赤ちゃんが生まれた時や七五三などの祝いの時などにも気分を盛り上げる役割をしたそうです。お餅をついて楽しい気分になり、嬉しいことが長くつづきますようにとお祈りするのです。まず、最初の臼で鏡餅を作ります。丸い心でしなやかに、まるで自分の心を鏡に映して自省するかのようにと、「鏡餅」の所以です。



園の行事の中には、このように昔からの伝統行事を取り入れ、その心を子どもたちに伝える役割も担っています。各家庭でのお正月の過ごし方にも、それぞれ大事にされていることがあることでしょう。そうして自ずと子どもたちに伝わっていくのでしょうか。

「今」が「未来」につながる



子どもたちを取り巻く社会の変化は著しく、とまどいを隠せないのは私だけでしょうか。

ましてや、子どもたちが社会人となる頃は想像もつきません。確実にいえることは、「知識基盤社会」になり、求められる学力は、「何を知っているか」という知識量から「何ができるか」という創造力へと否応なしに転換が迫られているのです。

でも、それは小学校以降のことで、幼稚園には関係ないことと考えておられるかもしれません。

教育は「未来につながる」営みです。特に今日、幼児教育にはその後の学びの基礎を培う、極めて重要な時期にあると位置づけられています。

園では、「今」、豊かな遊びを通して「こころ・からだ・ことば」の力を育み、子どもが自信と学ぶ意欲をもって「小学校へ進学する」ことをめざしています。

早期教育を指すことではなく、幼児期の「今」を充実させて「未来」へつなぐことを意味しています。

したがって、3年間をかけて豊かな遊びから確かな学びの基礎が培われるため、結果として、国立附属・公立・私立小学校へと、進学を選択肢が広がっていくのです。

このように、本園の特色は、幼児の成長に合わせながら、日々の園生活の中で、具体的なめあてを立て、その後、振り返りの活動を通して、気付きや学びを深められるような指導を積み重ねていることです。



生活発表会も然りです。毎日子どもたちはめあてをもち、友達や保育者との対話を重ねながら練習を進めていきます。子どもが主役の生活発表会になるのは言うまでもありません。乞うご期待！！

